



◆生協との付き合いが誇りであり、支えです



田老町漁協組合長
小林 昭榮氏

田老町漁協では震災により職員と組合員、その家族に犠牲者を出し、漁船や工場など施設をほとんど失いました。ぼうぜん自失の中、つながらなかった携帯がつながると、さっそく連絡いただいたのが生協の皆さんです。支援物資も届けていただき、本当にありがたく思いました。

初めの1カ月は海岸線のがれきや海上で絡まった養殖施設の撤去作業に明け暮れ、その後、復旧に取り組み、わかめの養殖では仮施設を設置、夏に採苗を行ないました。

この冬から本養成となりますが、621台あった養殖施設はすべて失われたため、現在、439台の建設を急ピッチで進めています。例年2,000トンのわかめが取れますが、来春にはその8割の1,600トンを収穫するのが目標です。いわて生協さんとの35年のお付き合いが、田老町漁協の組合員にとって誇りであり、支えです。生協の皆さんの真心を受け、それが今、希望という形になって前へ進む力になっています。

生協の真心が希望という推進力に

～いわて生協「田老町漁協を励ます会」開催～



いわて生協より田老町漁協に軍手などの寄贈が行なわれた。

10月22日、いわて生協は、岩手県宮古市の田老町漁協で「田老町漁協を励ます会」を開催しました。

宮古市の田老地区は、高さ10m幅2.4kmの大型堤防を越える津波が押し寄せ、田老町漁協も壊滅的な被害を受けました。

この日、田老町漁協に駆け付けたいわて生協の組合員、職員らは約50人。カイロや軍手、トラックの寄贈が行なわれ、漁協からの状況報告が続いた後、岩手郡コープ（盛岡市北西部の地区）の組合員が演じたのが寸劇です。田老町漁協の「真崎わかめ」がいかにおいしく、健康に良いかを、4人が舞台からユーモラスに訴えます。そのあと、組合員によって歌が歌われ、交流が続きました。

午後からは、滝沢村の「元村子どもさんさ愛好会」の子どもたちが、舞台狭しと太鼓を打ち鳴らし、笛の音を響かせて踊り、大きな拍手を受けました。

岩手郡コープ理事の反町久美さんは、「(田老町漁協の)景色がすっかり変わってしまって驚きました。内陸では“日常”が戻っていますが、こちらはまだまだこれからです。応援し続けなければとあらためて思いました」と語っていました。



建設中の田老町漁協製氷工場。

田老町漁協への募金開始

いわて生協では、10月15日より、田老町漁協へトラックを贈るための募金を実施しています。このトラックは、わかめを運搬するために使用されるものです。漁船購入とは異なり、購入する際補助が出ないため、今回の募金につながりました。いわて生協の店舗、共同購入で募金を行なっています。

◆リレー寄稿
震災半年を過ぎて



ちばコープ
専務理事 熊崎 伸氏

全国の生協からご支援をいただき心より感謝いたします。

ちばコープでは被災した旭市の花のフラワーアレンジメント教室開催や福島から避難された障がい者施設への生活物資支援を行ないました。また、みやぎ生協ボランティアセンターとの連携で東松島市の仮設住宅でのふれあい喫茶をコープネットグループと共に立ち上げ、組合員リーダーも参加しています。

ちばコープ経営会で、再起した石巻の水産メーカー所長に被災当時の状況から復活までのご苦労などをお話いただき、「先に復活した会社がなんとか商売できている姿を地域で見せないと、後に続く会社がなくなってしまうから、絶対に負けない」という言葉が忘れられません。商品カタログ表紙掲載や宅配担当者への声掛けで多くの組合員に利用していただき、産地支援に繋がればと思います。引き続き、被災地の声を聴き、支援を継続していきます。

おおさかパルコープから贈られた食器を無償提供

いわて生協は、10月8日に岩手県下閉伊郡岩泉町の仮設住宅団地3カ所にて、約150人分の食器の無償提供を行ないました。食器は「仮設住宅の人を支援したい」という、おおさかパルコープの組合員より贈られたもので、今までに岩手県の仮設団地全体の3分の1の世帯を訪問し、約10トンもの食器を提供してきました。

食器のニーズは非常に高く、津波被害の大きかった地域を中心に提供を行なってきましたが、今回は組合員からの要望もあり、あまり支援の入らなかった岩泉町での提供が実現しました。食器提供は、食器の取り扱いや並んだ人へ行き渡るように配慮が必要なため、いわて生協では開催案内や当日の運営など、きめ細かな対応を行なっています。

手伝いに駆けつけた、三田地滋子さんと箱石久美子さん(岩泉町のこ〜ぶ委員)は、「仮設住宅では食器が不足しているのので、今回提供できてよかったです」と話していました。



人数が多いので、1人3個ずつお渡しする。



いわて生協、参加スタッフの皆さん。

コープふくしま・除染カー始動

除染カー外観。



除染カーには、さまざまな道具が積まれている。



コープふくしまでは、「除染環境応援カー」（以下除染カー）を準備し、10月より町内会や班、学童クラブなどといった団体単位の環境除染活動への無料貸し出しを開始しています。

除染カーは、2トントラックに、除染活動に必要な道具を一式装備したもので、高圧洗浄機、鍬、草削り、スコップ、長靴、強力枝切りバサミなどが積み込まれています。この除染カーは、「除染のために役立つ車が欲しい」というコープふくしまの声を受けて、リース事業において取り引きのあったオリックス自動車株式会社様のご協力などにより実現したものです。

除染カーは、他団体への貸し出しのみでなく、コープふくしまが窓口となって協力をしている除染ボランティアでも活躍しており、10月16日に福島県伊達市で行なわれた除染ボランティア活動でも、使用されました。

◆「被災メンバーとの懇談会」を実施して



みやぎ生協 生活文化部
地域活動事務局統括
課長 池町 江美子氏

かつての町内会など地域コミュニティが減り、被災者の皆さんが自分たちの意見を伝える方法が失われていることを実感しました。場所によっては仮設団地の区長さんなどが上手に仕切り、住みよくするための取り組みが行なわれているようですが、大多数は住民間のコミュニケーションがうまくいっていないのが現状です。くらしの中の悩みを伝えたり、改善につなげる術がないようです。

今後を考えれば、誰もが前を向く気持ちになれないかもしれませんが、ありがたくも出席して下さる皆さんからは、伝える場を求める気持ち、また伝えることで誰かの役に立ち、今を変えていきたいという思いも感じとれました。

みやぎ生協は、県内の組合員加入率が世帯比で7割を超え、メンバー（組合員）さんの思いは県民の思いでもあります。これらの取り組みを通じてご意見を聞き、行政に伝える意義は大きいと思います。

被災メンバーの思いを受け取り、伝えていく

みやぎ生協では、10月6日より県北、石巻、仙南、仙台にある各ボランティアセンターにて参加者を募り、「被災メンバー（組合員）との懇談会」を実施してきました。折りに触れ被災者の声を聞くことに努めてきたみやぎ生協ですが、「国で三次補正予算の議論が始まったことや、首長・県議懇談などに被災されたメンバーさんの思いを伝えるために、今の思いをお聞きする懇談会を設けました」とみやぎ生協生活文化部の池町江美子さん。

参加メンバーやそのご友人からは「情報伝達が今も不徹底。目に見えて不公平が生まれている」「仮設住宅での近所付き合いは難しい。気持ちがすれ違くと親切もストレスに感じてしまう」など、率直な意見が寄せられました。仮設住宅を出た後の生活については「まだ考える余裕がない」「立案中の都市計画に気をもんでいる」「あの場所に住む気持ちは湧いてこない」など、思いは様々。画一的ではないきめ細やかな対応が求められます。



亘理町で行なわれた懇談会の様子。



一人ひとりが思いを伝えていく。

京都生協・志津川漁協で継続した支援活動



頑丈な土のう袋に、砂利を60kgずつ詰めていく。



ボランティアに参加された皆さん。

京都生協では、10月7日に夜行バスで京都を出発し、翌8日に、宮城県南三陸町志津川漁協にてボランティアを行ないました。このボランティアには、京都生協理事をはじめ、職員やその家族、また鳥取の生産団体の方や高校生など総勢41人が参加しました。

今回のボランティアでは、土のうづくりと炊き出しが中心に行なわれました。この土のうは、養殖わかめを作るいかなのおもりとして使用されるものです。土のうは当初1,000個作る予定でしたが、ボランティアの頑張りで1,200個作ることができました。

夕方からは、漁協の方やみやぎ生協職員との交流会が行なわれ、漁協の方より「今回の支援により、11月からのわかめの養殖に間に合います。これで、来年3月には南三陸産のわかめを出荷できる見通しが立ちました」と喜びの言葉をいただきました。

◆お役立ちのために
各種車を導入

みやぎ生協では、被災地での加入おすす
めや販売のために、さ
まざまな車を導入し
ています。

①せいきょう便

仮設住宅への移動販売を行
なう車です。導入にあたっ
て、ならコープや生協共立
社からの支援がありました。



②イベントカー

仮設住宅での、加入おすす
めのために使用。商品の展
示スペースなどがありま
す。



③ジャイロキャノピー (3 輪
バイク)

足元が悪い仮設住宅街で
も、このバイクがあれば、
すいすい入れます。加入お
すすめのために使用されま
す。



④折りたたみ式リアカー

車が入れない場所へ商品
をお届けする際に使用しま
す。



<復興関連情報一覧>

【岩手県】

いわて生協

●灯油利用拡大キャンペーン (10/11~11/30、被災者支援として灯油用ポリ缶 2
缶と給油ポンプ 1 個を無償提供) ●田老町漁協を励ます会 (10/22) ●盛岡西コ
ープ・サンサン青山ふれあい祭り (10/22) ●安否確認新システム導入 (10/25)
●原発・エネルギー問題を考える学習会 (10/26) ●ユニセフ・大槌町の幼稚園
と保育園に球根を植えるボランティア (10/26) ●盛南コープ・矢巾町産業まつ
り (10/29、30)

【宮城県】

みやぎ生協

●イベントカー・三輪バイク・折りたたみ式リアカー導入 (左欄②、③、④)
●放射能学習会●被災メンバーとの懇談会●ボランティアのための「心のケア
学習会」(10/24、25)

【福島県】

コープふくしま

●除染ボランティア (10/16) ●ガラスバッジ (放射線積算線量計) の測定結果
に関する説明会 (郡山市、10/17)

【各県連等】

宮城県生協連／●パネルディスカッション「震災後の消費者行政に何が必要か」
(11/7、消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎ主催)

福島生協連／●福島応援隊第 2 弾全体会議 (10/20) ●復興マルシェ (10/22、
23) ●放射能と健康問題プロジェクト (10/26) ●会長ほかチェルノブイリ視察
(10/31~11/7)

茨城県生協連／●放射能学習会 (10/13・31、つくば市)、●第一回食の安心・
安全を考えるセミナー (10/19、共催 J A グループ茨城・生協県連、漁連、森連)、
●ボランティア入門講座 (10/20、共催 N P O センター commons・県社協・県連)

コープネット事業連合／●復興支援金贈呈のための被災地訪問 (11/1、2 石巻・
女川地区)、●東日本復興支援 コープフェスタ 2011 (11/5、6)

日本生協連に寄せられた東日本大震災支援募金

第 6 次分として約 1 億 6,000 万円を被災各県に送金しました

日本生協連が東日本大震災の被災者支援のために開設した募金口座には、2011 年 10 月 5 日
現在、累計で約 22 億 2,000 万円が寄せられています。また、会員生協が独自に取り組んでい
る募金を含めると、生協グループ全体の募金総額は約 33 億円にのぼります。今回の送金で、
各県への送金額は累計 22 億 2,540 万 8,569 円となりました。日本生協連に寄せられた募金は、
全額を被災者の方々に確実に届けるために、各県の被災者支援のための「義援金口座」に振り
込みます。詳細は、<http://jccu.coop/info/announcement/2011/10/616000.html>

◎生協の震災復興支援の取り組み情報募集!!

皆様の地域での生協の復興支援に関する取り組み情報を、お寄せ下さい。
情報提供用専用メールアドレス action@coop-book.jp



つながろう CO・OP アクション情報
(隔週水曜日発行・次回 11 月 9 日発行予定)

発行 日本生活協同組合連合会 (会員支援本部出版部)
〒150-8913 東京都渋谷区渋谷 3-2 9-8 コーププラザ 1 1 F
Tel : 0 3-5 7 7 8-8 1 8 3 / Fax : 0 3-5 7 7 8-8 0 5 1
action@coop-book.jp